

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	25203
----------	-------

1. 開設大学	安田女子大学 文学部	開講場所 (キャンパス・施設)	本学
2. 科目名	高校生のための書道講座		
	学問分野	番号	名称
3. 担当教員	増田知之・着任予定者 (文学部 書道学科)		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	令和2年8月4日 (火) 10時00分 ~ 15時40分 (90分×2回)		
個別開講日	1回目 8/4	2回目 8/4	3回目 /
	4回目 /	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /
	10回目 /	11回目 /	12回目 /
5. 募集定員	40人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>20世紀以降、中国西域を中心とする各地から発見された文字等によって、それまでペールに包まれていた歴史は次々と塗り替えられていきました。また、書制作においても、古法帖中心の学書から新発見の肉筆資料による新しい書風の表現が試みられていきました。この講座では、文字の発見がもたらした書道史研究と書の作品制作との両面を紹介し、幅広い書の研究の一端にふれていただきたいと思います。</p> <p>1. 10:00~11:30 「鍾繇・王羲之の真相をもとめて—文字の発見からみた研究史—」 (講師：増田知之)</p> <p>後漢時代から魏晋時代にかけて、紙の普及など書写環境の変化により、書が芸術的な地位を獲得することになります。そして、のちに「書聖」として尊崇される王羲之が登場します。今回は、「東牌楼漢簡」や「李柏文書」など、木簡や紙に書かれた新発見の肉筆資料と歴代の文献史料(書論)とを縦横に活用して、「草書の芸術性」、「行書の実相」、「楷書の生成」というテーマのもと、王羲之と「薦季直表」などで知られる鍾繇ら代表的書人を関連させながら講義を行います。</p> <p>2. 12:30~15:40 (休憩含む) 「制作の現場—文字の発見を作品化する—」(講師：着任予定者)</p> <p>近50年、さまざまに試みられてきた作品制作の実例を紹介しつつ、文字の発見がもたらした制作現場の変容に迫ります。また、講師が試みてきた隷書による作品化の過程を紹介し、作品化する難しさ楽しさ等を一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>なお、前半は半紙を使用した実習、後半は会場をフロア教室に移し、半切を使用した実習を行います。半紙・半切・墨等の用具はすべて用意しますが、筆は持参しても構いません。また、ジャージ等に替える更衣室も用意しています。</p>		
7. 受講料	無 料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし		
9. 開講条件※1 あり・ <input type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 (            人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月10日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月11日(土)以降の開講科目は6月末まで)		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと		
11. 開設大学への 交通手段	<a href="http://www.enica.jp/">http://www.enica.jp/</a> から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※1 申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。